

第5期横浜市港南区民文化センター指定管理者 第2回選定評価委員会 議事録

開催日時	令和8年8月17日（月） 9時00分～10時25分
開催場所	港南区役所6階 603号室
出席者	太下委員、長沼委員、佐藤委員、宮田委員（計4名）
欠席者	菅原委員
開催形態	議題1 面接審査（プレゼンテーション及び質疑応答）は公開 議題2 審議は非公開 傍聴人 4名
議題	はじめに 1 指定管理者応募団体の面接審査 2 審議
面接審査 ・質疑	1 指定管理者応募団体の面接審査 1 団体あたり10分間のプレゼンテーションを実施し、その後、質疑応答を行った。団体のプレゼンテーションの概要は次のとおりである。 《応募団体 京急グループ共同企業体》 ・株式会社京急アドエンタープライズ、京急サービス株式会社及び株式会社クラフトの3社で構成する共同企業体として、港南区民文化センターひまわりの郷を20年間運営してきた実績を踏まえ、「暮らしに根差し、地域とともに育つ「港南の文化」核へ。」を基本方針とした運営を提案した。 ・第5期の基本方針として、「子ども・若者の文化体験の拡充」、「社会課題への文化芸術によるアプローチ」、「誰もが文化を体験できる場づくり」、「文化芸術を通じたまちづくり」、「港南区の魅力発信」の5つの視点から事業を展開する。 ・子どもや若者の文化体験を重視し、乳幼児から高校生までを対象とした音楽体験プログラムやダンスイベント、高校生ロックフェス、舞台技術を学ぶワークショップなどを通じて、次世代の文化芸術の担い手を育成する。 ・情報コーナーを活用し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄り交流できる「まちの文化リビング」の形成を目指す。 ・障害の有無や国籍等に関わらず文化芸術に参加できる環境づくりを進めるとともに、ラポール上大岡、港南国際交流ラウンジ等との連携によるインクルーシブな事業展開を提案した。 ・地域コーディネーターを配置し、学校、福祉施設、文化団体、企業等との連携を強化することで、人と人、人と地域をつなぐ地域の文化拠点としての機能強化を図るとした。 ・京急百貨店やウィング上大岡等との連携を活かし、地域回遊型イベントやミニコンサート等を実施することで、上大岡エリアの賑わい創出に取り組むとした。 ・GREEN×EXPO 2027及び開館30周年を契機とした事業を実施し、地域の文化振興や施設の活性化につなげる提案であった。 [主な質疑応答] 〈委員〉施設利用者層として高齢者が多いと思われるが、シニア世代を対象とした事業やプログラムについてどのような取組を考えているのか。 〈応募団体〉幅広い年齢層を対象とした事業展開を考えている。具体的には、情報コーナーを活用した折り紙体験、読み聞かせ、昔遊び体験などの世代間交流プログラムを実施し、高齢者と若い世代が交流できる世代間交流プログラムを展開したいと考えている。

〈委員〉提案されている子ども向け音楽体験事業について、参加者の募集や周知はどのように行っているのか。また、十分に利用者へ浸透しているのか。

〈応募団体〉ホールの特性を活かした音楽体験事業を実施しており、チラシやポスター等を活用して周知を行っている。現在はホールを活用したマンツーマンのレッスンや発表会形式の企画も実施しているほか、著名な海外アーティストとの交流機会を設けるなどの取組も行っている。その結果、多くの応募や参加をいただいている。

〈委員〉付帯収入として計上している弁当や菓子類の手配について、どのような需要を見込み、収入確保につなげていく考えか。

〈応募団体〉過去にも弁当手配を実施していたが、従来想定していた事業者では直前の注文への対応が難しい面があった。今後は新たな事業者との連携により利用者のニーズに対応できる体制を整え、利用促進を図りたい。また、利用者の発表会等における動画撮影や映像編集を行い、DVD等として提供するサービスについても付帯収入として見込んでいる。

〈委員〉個人情報保護について、「十分に配慮する」としているが、具体的にどのような取組を行うのか。

〈応募団体〉職員に対して定期的にコンプライアンス研修を実施し、個人情報の適切な取扱いについて周知徹底している。また、新たに採用した職員に対しても研修を実施し、個人情報保護の重要性について理解を深める取組を行っている。

〈委員〉地域コーディネーターを配置する計画となっているが、ホール事業の比重が大きい中で、事業担当との役割分担をどのように考えているのか。

〈応募団体〉ギャラリーで実施する自主事業は年間2～3本程度であり、主な事業はホール事業である。自主事業は年間約40本実施しており、担当職員4名で分担して運営しているため、現在も無理のない体制で実施できている。地域コーディネーターについても事業担当と連携しながら運営していく考えである。

〈委員〉広報について、LINE等を活用していることだが、その効果と今後の取組について伺いたい。

〈応募団体〉LINEの友だち登録者数は現在1,000人を超えており、一定の効果があると認識している。今後も継続して活用するとともに、XやInstagramなど若い世代へ情報発信できる媒体も活用しながら、より効果的な広報手法を検討していきたい。

〈委員〉ギャラリーの利用率向上が課題となっているが、提案にあるワークショップの導入について、具体的にどのような取組を考えているのか。主催事業として実施するのか、それとも利用団体へ提案していくのか。

〈応募団体〉ギャラリーの活用方法は課題の一つと認識している。現在は展示利用が中心で、1週間単位の利用が多い。他区の区民文化センターでは自習室としての活用や常設展示、土日のみのワークショップなど様々な活用事例があることから、それらも参考にしながら活用方法を検討したい。また、若年層向けに、ダンス練習や撮影の場として活用することも考えている。

〈委員〉提案されている避難訓練コンサートについて、どのような目的で実施しているのか。職員の訓練という側面もあるのか。

〈応募団体〉地震等の災害発生時に、多数の来館者を安全に誘導するための実践的な訓練として実施している。商業施設内という立地特性も踏まえ、消防署と連携して避難誘導や対応方法を確認している。来館者の安全確保が目的であるが、同時に職員が状況に応じて適切に誘導できるよう訓練することも重要な目的である。様々な利用者層を想定しながら、職員の対応力向上につなげている。

	〈委員〉 20年間にわたり高い稼働率を維持しているが、現時点で課題や改善したい点があれば伺いたい。 〈応募団体〉 今後は地域コーディネート機能を強化し、地域へ出ていく機会を増やしていきたいと考えている。そのためには内部事務の効率化や業務の整理が必要であり、地域コーディネーターの配置や業務改善を進めながら、より効率的な運営体制を構築していきたい。 2 審議 第5期横浜市港南区民文化センターの指定管理者を選定するにあたり、第1回選定評価委員会で定めた評価基準項目に則り評価を行った結果、京急グループ共同企業体を指定候補者として選定した。 【委員からの意見・総評】 《応募団体 京急グループ共同企業体》 ・20年間にわたる施設運営実績に裏付けられた安定感があり、施設の実情や利用者ニーズを踏まえた提案内容であった。 ・子どもや若者を対象とした事業については、既存事業を体系化しながら発展させようとする考え方が示されており、次世代の文化芸術の担い手育成につながる提案として評価できる。 ・ホールの特性を活かした音楽体験事業や著名演奏家との共演企画など、本格的な文化芸術に触れる機会の充実が図られており、施設の強みを活かした提案であった。 ・京急百貨店等との連携による地域回遊型イベントや、GREEN×EXP02027、開館30周年に関連した事業など、地域の賑わい創出につながる意欲的な提案が示されており、評価できる。 ・一方で、多数の新規事業や記念事業が提案されていることから、事業の優先順位や業務の効率化、実施体制を整理しながら、着実に事業を進めていくことを期待したい。 ・若者向け事業と比較すると、シニア向け事業が体系化されていないため、シニア世代を対象とした取組についてさらなる充実を期待したい。 ・財務状況について、20年間の運営実績に加え、共同事業体を構成する各法人とも概ね安定しており、指定管理者として継続的かつ安定的な施設運営が期待できる。一方で、構成団体の一社については収益面に課題が見られることから、今後の改善状況を注視する必要がある。
審議結果	・京急グループ共同企業体を横浜市港南区民文化センターの指定候補者とする（665点／960点）。